

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★



Data

監督：園子温

出演：吹越満／でんでん／黒沢あすか／神楽坂恵／梶原ひかり／渡辺哲／諏訪太郎

👁️👁️ みどころ

3時間57分の『愛のむき出し』（08年）にも驚いたが、『悪人』（10年）をはるかに凌ぐ園子温監督の「悪人」の描き方にビックリ！もともとワル風の男と女の「豹変」ぶりには納得だが、これまで真面目に働いてきた善良な男も女もここまで「君子豹変」できるの？

人間の身体だって牛や豚と同じように切り刻んで処理すれば透明に！物的証拠がなければ、57人を殺したってきっと無罪に。そんな「悪人」の論理にも「なるほど」だが、さて何とも意外な本作の結末は？

こりゃ必見！園子温監督の人間洞察力の鋭さに脱帽！

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*

■□■あなたはこのタイトルをどう理解？■□■

園子温監督の『愛のむきだし』（08年）は何ともすごい問題提起作だった（『シネマルーム22』276頁参照）し、それに続く『ちゃんと伝える』（09年）も、タイトルどおり「ちゃんと伝える」ことの大切さをしっかりメッセージしたい映画だった（『シネマルーム23』221頁参照）。本作の案内をもらった時、私はまず『冷たい熱帯魚』という奇妙なタイトルにも注目した。熱帯魚とは熱帯地方に生息する魚のはずだから、そもそも「冷たい熱帯魚」という言葉自体が少しヘン？

もともと、社本信行（吹越満）と村田幸雄（でんでん）という2人の主人公が2人とも、大小の差こそあれ熱帯魚店のオーナーという設定であれば、タイトルに熱帯魚という言葉を入れたくなるのは当然だから、よく考えてみると『冷たい熱帯魚』という邦題はヘンではなく、逆にピッタリ？ちなみに、40歳になって今なお少女のような雰囲気を保つ相田

翔子が相棒と組んだ「Wink」が歌い、1989年の第31回日本レコード大賞を受賞した『淋しい熱帯魚』も変なタイトルだったが、これも歌詞をちゃんと確認しながら聴けば、なるほどと納得できるものだった。

■邦題と英題、どちらがベター？■

他方、本作の英題は「コールド・フィッシュ」。それを直訳すれば「冷たい魚」だが、それでは全く趣旨不明。そこでプレスシートの監督インタビューを読んでもみると、「英題だと『コールド・フィッシュ』。今回のタイトルはどのように付けたんですか？」との質問に対して、園子温監督は「ジョン・レノンに『コールド・ターキー』って歌があって、ならば『コールド・フィッシュ』もありかなと。そんな単純な発想ですね。で、調べてみたら「冷淡な人」って意味があるらしく、これはピッタリだなんて。」と答えている。なんだ、タイトルってそんな風にいい加減に(?) 決まるのか・・・?

今年の映画界の話題の1つは、深津絵里が李相日監督の『悪人』(10年)でモントリオール世界映画祭最優秀女優賞を受賞したことだが、吉田修一原作のこの映画では、『悪人』という邦題が妻夫木聡演じる主人公とどこまでフィットするかが少し難点だった。しかし、英題『コールド・フィッシュ』に「冷淡な人」という意味があり、それが本作にピッタリだというのであれば、本作こそもっと思い切って『悪人』というタイトルにした方がよかったのでは? そんな視点も含めて、あなたは邦題と英題、どちらがベター?



「冷たい熱帯魚」8月2日 Blu-ray&DVD 発売 Blu-ray ¥5,985(税込) DVD ¥4,935(税込)

発売元: 日活株式会社 販売元: 株式会社ハピネット ©NIKKATSU

■□■女優の注目は黒沢あすかだったが、結果は？■□■

黒沢あすかは塚本晋也監督の『A SNAKE OF JUNE 六月の蛇』（02年）（『シネマルーム3』359頁参照）を観て私が大好きになった女優だが、私の目にはその後の『嫌われ松子の一生』（06年）（『シネマルーム10』360頁参照）などにおける存在感はイマイチ。しかし、その黒沢あすかが園子温監督の映画に出演するとなると、『愛のむきだし』で満島ひかりが大ブレイクしたように、再び黒沢あすかが大変身するのでは？ そんな期待を持ったが、彼女は本作で私の期待以上のすごい演技を見せてくれる。

他方、社本の妻・妙子を演じた神楽坂恵も、社本の娘・美津子を演じた梶原ひかりも私は全然知らなかったが、彼女たちは本作でいかなる演技を？ まず驚いたのは、妙子がミニスカートに加えて胸の谷間丸見えの服装で小さな熱帯魚店内で仕事をしているうえ、そのままの服装で娘の不祥事の処理のためにスーパーマーケットに赴いていること。村田にえらく若く美しい妻・愛子（黒沢あすか）がついていることは、もともと村田も愛子もへんなヤツという目で見ているから、

愛子が胸の谷間丸見えのドレス姿で大きな熱帯魚店の中を歩いても全然不思議ではない。しかし、妙子はなぜこんな下派手な服装を？ それに、なぜ娘の美津子がスーパーマーケットで万引きをしたの？ また、なぜ美津子が妙子に反発しているの？ さらに雨が降る中、なぜ妙子は1人店の軒先でタバコを吸っているの？ というストーリー展開が理解できてくると、なるほどとわかってくる。



『たれこ 熱帯魚』8月2日Blu-ray&DVD発売 Blu-ray ¥5,995(税別) DVD ¥4,935(税別)
発売元：日経株式会社 販売元：株式会社ビネット ©NINIKATSU

妙子は美津子の継母、つまり美津子の生みの母親が死亡した後に社本が再婚した若い女だが、既に年頃になっていた娘にとって母親の死亡後すぐに父親が妙子のような色気ムンムン(?)の若い女と再婚することを認めることができなかったのは当然。妙子の異常性(?)は社本と村田との接触が始まった後すぐに明らかにされるが、美津子のそれは2時間26分の本作のラストでやっと明らかにされるから、それまでじっと我慢を。いずれにしても、私は本作における女優の注目点は黒沢あすかだと考えていたが、何の何の神楽坂恵も梶原ひかりもすごい熱演を！

■□■「君子は豹変す」ということわざの、ホントの意味は？■□■

大阪北ヤードへのサッカースタジアムの誘致に賛成していた橋下徹大阪府知事が11月

27日突如「都市のど真ん中のあの場所に森をつくりたい」「堂々と反対していく」と発言したことに対し、「大阪維新の会」をめぐる争いが先鋭化していく中、今やライバル心むき出しとなっている平松邦夫大阪市長は戸惑いと反発を強めている。そして、橋下知事の豹変ぶりをしきりに批判しているが、さて「君子は豹変す」という中国のことわざを私たちはどう理解すればいいの？

日本人は「君子は豹変す」ということわざを、悪い意味に使っていることが多い。しかし、「君子豹変、小人革面」は「立派な人物は、自分が誤っているとわかれば、豹の皮の斑点が、黒と黄ではっきりしているように、心を入れ変え、行動の上でも変化がみられるようになる。反対に、つまらぬ人間の場合は、表面上は変えたように見えても、内容は全然変わっていない」ということわざで、もともと君子が豹変するのは当然だという意味で使われていたものだ。

■□■本作では、君子はいかに豹変？■□■

本作に出演している女優について私が黒沢あすかしか知らなかったのと同じように、男優についても吹越満については全然知らなかったし、でんでんについても顔はよく知っていたが、そのすべては脇役だったから主役を張るような役者ではないと理解していた。

園子温監督はプレスシートの監督インタビューで「以前、『ちゃんと伝える』で国語の先生を演じてもらったときから、『悪役をやらせてみたいなあ』と思っていたんです。」と語っているが、なるほど、いかにも真面目で誠実そうなやつほど、その豹変ぶりは興味深く面白いものだ。

万引きした社本の娘・美津子を怒鳴りつけているスーパーマーケットの店長に対して、村田が「俺の顔に免じて許してやってくれ」と助け船を出したばかりか、「美津子ちゃんをうちの店で働かせてみては」とえらく前向きな提案(?)をしたのは一体なぜ? 継母の妙子を心の底から毛嫌いしており、家を出ていきたい一心の美津子はもちろんこれに大賛成。しかも、でんでん演じる村田は弁舌さわやかだから、そのトークに太刀打ちできない社本



は一方的に村田のペースに引き込まれていくばかり。その結果、あれよあれよと言う間に事態は何ともすごいスピードで大進展。しかして、村田の店の2階の密室(?)で2人きりになった村田と妙子の間で起こった事態とは? なるほど、君子は豹変するもの。そして、男のそんな豹変を、女は意外とすんなり受け入れるもの・・・?

「冷たい熱帯魚」8月2日Blu-ray&DVD発売 Blu-ray ¥6,985(税込) DVD ¥4,935(税込)
発売元: 日活株式会社 販売元: 株式会社ビデオネット ©NINIMATSU

■□■この毒殺は、何と58人目！■□■

インチキビジネスにはインチキトークが付きものだが、それだけでは無理で、それなりの人を騙すに足りる状況設定と役者の登場が必要だが、そんな時弁護士が大きな役割を果たすことがある。今回、村田の大きな熱帯魚店2階の応接室に投資家の吉田（諏訪太郎）がやってきたのは、村田が提案する熱帯魚ビジネスに1000万円を投資するか否かを判断するため。そこで村田が設定したのは、村田の顧問弁護士だという筒井高康（渡辺哲）を出席させた他、村田のビジネスパートナーというふれこみでの社本の出席。社本の出席は、「同じ熱帯魚店を経営している社本のお墨付きがあれば、吉田さんも安心して投資できるでしょう」という後押しのためだ。弁護士業務を行う場合、スーツにネクタイ姿、そしてスーツには弁護士バッジというのが定番だが、筒井は風貌が全然弁護士風でないうえ、バッジもつけていないから、なぜ吉田はそれを疑わないの？吉田は1000万円の現金を持参していたが、村田のインチキトークだけでは、熱帯魚ビジネス参入に踏み切れないよう。そこで村田が展開する大胆な交渉術とは？

鳩山由紀夫、菅直人と続く民主党政権の中で外交能力の稚拙さが際立っているが、彼らこそこの村田の交渉術に学ぶ必要がある。交渉術のイロハは、「押さば引け。引かば押せ」だが、そこには当然多少の「ハッタリ」も必要。しかして、村田が仕掛けた巧妙な「ハッタリ」にまんまとはまった吉田は、顧問弁護士の筒井が提示する契約書に署名し、ハンコを押すことに。さあ、その後契約の成立とビジネスパートナーの成立を祝して飲んだ、栄養ドリンクの中には一体ナニが？口から泡をふかして倒れこんだ吉田の姿を見て、村田もその一部始終をじっと見ていた愛子も、突然君子豹変。そこで、村田の口から出た言葉によると、何とこれは58人目の殺人らしい。そんな状況下、さて社本はいかなる行動を？

■□■尋問打合せは、ここまで徹底的にやらなくちゃ！■□■

訴訟事件を担当する弁護士の任務は、大きく書面づくりと証人尋問の2つ。証人尋問まで行かず和解で解決できれば楽だが、証人尋問をやることになれば弁護士はその準備が大変だ。もっとも、国選の刑事事件では事前の打合せもしないまままでの被告人質問もあるようだが、私が委任を受けている訴訟事件での証人尋問では事前の打合せにかなりのエネルギーを割いている。とはいえ、証人になる人間がどこまでしっかりしているか否かによって、その大変さは変わってくるから、出来の悪い証人の打合せは大変。これはきっと、映画監督が出来の悪い俳優を主役として使わざるをえない大変さと全く同じだろう。

今、村田の会社にかかってきた電話は、死亡した吉田の弟と称するかなりヤクザっぽい男。兄は1000万円を持って村田の熱帯魚店に赴いた直後に行方不明になったのだから、村田が兄に対して何かをしでかしたに違いないと疑うのは当然だが、その突っこみ方はまるでヤクザそのものだ。そんな言い方をされると、自分に非があると思う者はビビルもの

だが、既に57人も殺し、透明にしている（その意味は、あなた自身の目でしっかり確認！）村田にしてみれば、吉田の弟たちの追及をかかわすことくらいはへのカッパ。だって、物証が何もない以上、「知らぬ存ぜぬ」で押し通せば絶対大丈夫なのだから。そこで村田が書いたシナリオは、吉田とのビジネス話がダメになったので違約金はもらったが、450万円は吉田に返還し円満に別れたのだから、その後吉田がなぜ行方不明になったのかと言われてもそれは知らないというもの。たしかに、芸達者で海千山千の村田や筒井、そして村田の嫁の愛子はそんな役割をしっかりとこなすことができる玉だが、気が小さくてオドオドした気持が如実に表面に出てしまうタチの社本はそんな追及にどこまで対応できるの？



**「冷たい熱帯魚」8月2日 Blu-ray&DVD 発売 Blu-ray ¥5,985(税込) DVD ¥4,935(税込)
発売元：日活株式会社 販売元：株式会社ハピネット (C)NIKKATSU**

そこで展開されるのが、村田と愛子による「想定問答集」(?)にもとづく、社本に対する尋問の打合せ。これは弁護士が法廷での証人尋問をにらんで実施する証人尋問の打合せと同じようなものだが、本作に見るこの打合せ風景は秀逸。私はこの打合せ風景のように、何度も「こうしゃべれ、これは言ってはダメ」「オドオドするな!」「大きな声でしゃべれ!」と証人を指導しながら打合せをしてきた。今ドキの法廷経験も少なく、また証人尋問の打合せ経験も少ない弁護士が、証人尋問のノウハウを学ぶについては、弁護士会のくだらない講義を聴くより本作を観た方がよほど有益。弁護士36年の私がそんな確信をもつほど、本作の打合せ風景は秀逸だ。

■□■男たちの権力闘争を、女たちはどんな目で？■□■

NHK大河ドラマ『龍馬伝』は大好評のうちに終わり、2011年1月からは上野樹里主演の『江～姫たちの戦国～』が始まる。織田信長の妹・お市が浅井長政との間に産んだ3人の美女、茶々（のちの淀君）、初、江の3人はあの激動の時代にそれぞれ激動の人生を歩んだが、それは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と続く権力闘争と武力による政権交代が展開していく中での宿命だった。しかして、本作にみる村田の妻・愛子の人生とは？

社本は権力闘争には全く縁のない男だが、村田は過去57人も殺した男で、吉田が58人目の殺人だから、かなりえげつない権力闘争をくり広げてきたことは想像に難くない。そんな村田は、ある時は顧問弁護士、ある時は顧問アドバイザーと称している筒井と二人三脚のいい関係のようだが、それだって裏の裏をのぞいてみれば・・・？

私が思うに、戦国ドラマをみても、幕末ドラマや明治維新ものドラマをみても、そして本作をみても、男たちの生きざまは単純だからそれはすぐに理解できる。坂本龍馬も秋山好古、真之兄弟も、そして正岡子規も単純なものだ。しかし、千葉道場のお佐那様や龍馬の妻となったお竜さんは？また子規の妹・律は？そんな目で見ると、まず女の複雑さ、不可思議さを見せるのは、社本の妻・妙子がいとも簡単に村田とエッチすること。そして、中盤にあつと驚くのは、村田の妻であり、村田の忠実な仕事上のパートナーでもあると思われていた愛子が、これから先は村田から筒井に乗り換えようと考えており、筒井ともエッチ関係にあるらしいこと。こりゃ、一体ナニ？

園子温監督がとことん人間の悪について描く本作に観るについては、単純な男たちの権力闘争のサマとは別の、女たちのそんな複雑な生きざまを観察しなければ。2時間26分の本作のクライマックスは、ラストにおける社本の「大変身」だが、私がビックリしたのはその大変身に対する愛子の対応力。エッチするについて、男は相手の女が若くてキレイなら誰でもいいのと同じように、女は権力を握り、世界を支配している男なら誰でもいいの？園子温監督が描くそんな世界観を、本作でしっかりと勉強したい。

■□■あの映画の血もすごかったが、本作はその数倍も！■□■

石井隆監督の『ヌードの夜／愛は惜しみなく奪う』（10年）は竹中直人の代表作だが、映画冒頭に見る大竹しのぶと井上晴美による、風呂場の中で臭い臭いと言いながら、「じじい」の肉体を切り刻み山の中へ捨ててに行くシーンにはビックリさせられた（『シネマルーム25』183頁参照）。園子温監督がこのシーンを参考にしたかどうかは知らないが、村田と愛子が吉田の肉体を切り刻み、「透明」にしていくシーンではさらにそれがリアルに。そりゃ牛や豚だってすべてきれいに切り刻むことによって人間の食料品になるのだから、人間の身体解体なんて、やろうと思えば簡単なもの。小さく切り刻んだ肉は川に捨てれば魚が喜んで食ってくれるし、骨だって高温で焼き、そこらにばらまけば何の跡形も残らな

い。そうすれば、結局何の物的証拠も残らないから、大阪地検の前特捜部、前田恒彦検事のような強引な取調べに屈服して「自白」さえしなければ、有罪になることはありえない。そんな村田の信念はそりゃ立派なものだ。現に本作後半に至ってやっと静岡県警の刑事が登場するが、過去57人の失踪（殺人？）について疑惑を持ちながら、警察は何ら現実の捜査に着手できないでいたわけだ。



**「冷たい熱帯魚」8月2日Blu-ray&DVD発売 Blu-ray ¥5,985(税込) DVD ¥4,935(税込)
発売元：日活株式会社 販売元：株式会社ハピネット (C)NIKKATSU**

そんな中、本作はいかなる形で収束を？私は後半はずっとそんな興味を持ちながら観ていたが、それは園子温監督が描いた脚本らしく何とも予想外の結末になっていくからそれに注目！ただし、私のように大量の血に弱い人は多少用心が必要だ。つまり、牛や豚を切り刻む姿はある程度想定できても、大量の血を流しながら人間の骨や肉を切り刻む作業をあなたはどこまで想像できる？ラストに向けての、大量の血が流れた風呂場を舞台とした社本と愛子の「立ち回り」と「愛の表現」とは？映画前半における村田のあっと驚く「君子の豹変ぶり」にもビックリしたが、ラストに向けてみる社本のあっと驚く「君子の豹変ぶり」に注目！そして、最後に放たれる、社本の娘である美津子のあっと豹変した言葉と行動にビックリ！

おめでたい年の始めの映画として本作はお薦めできないが、「これぞ悪人！」という人間の本性をとことん極めたい方には本作は絶好。園子温監督の相も変わらぬ問題提起のすばらしさに脱帽し、大拍手！

2010（平成22）年12月18日記